

# 令和2年度 小林市立野尻中学校 学校関係者評価書

## 【学校の教育目標】

未来を生き抜くための確かな学力、豊かな心、  
たくましいからだをもった子どもの育成

## 【学校経営ビジョン】

「自立と自律」「感謝」「貢献」をスローガンに、学校・家庭・地域が一体とな  
って活力ある教育活動を推進することにより、学校教育目標の具現化を図り、  
信頼される学校づくりに努める。

《評価：4段階評価》

- 4 期待以上
- 3 ほぼ期待どおり
- 2 やや期待を下回る
- 1 改善を要する

項目	本年度の重点目標と目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	関係者 評 価	学校関係者評価のコメント
知 育	<p>○ <b>確かな学力の向上</b></p> <p>① 相互参観授業の積極的な実施を行い、Web 学習、ICT の有効活用を図る。 (年2回の研究授業、Web 学習、ICT 活用100% 授業中 ICT 指導能力88%)</p> <p>② 生徒指導の三機能を生かした授業を行い、学習規律の徹底を図る。</p> <p>③ キャリア教育の充実を図り、将来を見据えた主体的学習態度の育成を 図る。 (学びたい度60%)</p> <p>④ 英語の苦手意識を払拭し、英検取得率を高める。 (1年5級以上70%、2年4級以上50%、3年3級以上25%)</p>	<p>○ 2か年にわたる研究を公開する年であった。全職員で共通理解を図りながら、共通実践することができた。ICT活用については、全職員が活用できる単元では積極的に活用できた。</p> <p>○ 表現力の向上を図るために、「読み書きトレーニング」を定期的に実施し、自分の思いや感じたことを表現できるようになった。また、話し合い活動の約束事を各教科で取り入れたことにより、スムーズな話し合い活動ができるようになった。また、授業開始及び終了時の学習規律について、全学級が統一した所存が徹底できるようになった。</p> <p>○ 予定していた校外での学習等は実施できなかったが、調べ学習を通して、将来について考える時間は設定でき、意識の高揚は図れた。 (学び態度57%)</p> <p>○ ALTの活用など英語科を中心に手立てを講じているが、苦手意識克服にはつながっていない。 また、英検を延50名が受験し、合格率は50%であった。(2回受験) (1年5級以上22%、2年4級以上39%、3年3級以上16%)</p>	①3,5 ②3,5 ③2,9 ④2,9	3,4	<p>○ 大きな目的である自身の将来について、よく考えて行動していると思います。</p> <p>○ ICTを活用した学習の取組が必要とされていることから、引き続き積極的に活用をお願いします。また、生徒アンケート結果では「先生はわかりやすい授業を行っている」に対する「いい」という回答が、昨年度より多くなっており先生方の取組の成果が感じられる。</p> <p>○ 2年間の中でICT活用しながらの授業は積極的に取組まれ、全職員での共通理解した上で実践されたことは、研究公開後も引き続き行っていただきたい。</p> <p>○ 学校外での学びの場がなかったが、学びたい気持ち60%に現れているが、将来について考える時間が有効に使われた取組だったと思われる。</p> <p>○ 「立腰」「姿勢」については、家庭との連携が必要だと思います。</p> <p>○ 学習規律の面では自己評価は良好であるものの、「立腰」に関して生徒アンケートでは「あまり」という割合が高いため、継続的な指導をお願いします。</p> <p>○ 学年が上がるにつれ、数学と英語を苦手教科とする割合が高くなっており、難しい課題とは思いますが、苦手克服に向けた新たな取組を望みます。そうした中、理科を苦手とする割合が減っているのは何なのか、また、苦手教科を挙げる生徒の割合が昨年に比べて増えてきていることは気になることです。</p> <p>○ 英語苦手意識の払拭は、長年難しい項目だが「どちらかと言えばそう思う」81%とよい方向と見て、英検挑戦・達成とできた喜びを共感しながら今後も続けていただきたい。</p>
徳 育	<p>○ <b>豊かな心の育成・生徒指導の充実</b></p> <p>⑤ 全教育課程を通しての人権教育の充実を図る。 (いじめ解消100%)</p> <p>⑥ SC、SSW と連携した教育相談体制を整備し、不登校や配慮を要する生徒の支援体制の充実を図る。 (不登校傾向5名を1名以上減少)</p> <p>⑦ 「凡事徹底週間」を中心に規範意識の高揚を図る。</p> <p>⑧ 読書活動、新聞投稿(作文、詩、短歌等)の充実を図る。 (図書館利用、年間25冊以上)</p>	<p>○ 学校生活アンケートを毎月実施し、実態把握に努め教育相談も定期的にを行った。今年度は生徒主体で「いじめ撲滅宣言」を作成し、全校生徒でいじめ撲滅を誓った。現在いじめは「ゼロ」と認知しているが、生徒から発されるSOSを見逃さないよう、全職員でアンテナを高めて気を配ってきたい。</p> <p>○ 学級担任のみで負担感がわからぬよう、生徒指導主事を中心にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の協力を得ながら支援体制を整えた。(現在不登校2名、怠学傾向1名、2名の生徒が解消)</p> <p>○ 今年度は特に、「ロッカー整理」「自転車整理」「立ち止まり挨拶」「靴箱の整理」を重点的に取り組み、生徒自身の意識が高まってきている。</p> <p>○ 図書館利用や読書量の向上を図るため、様々な取組を行った結果、数値目標を達成することができた。 (一人あたり年間27,6冊)</p>	⑤3,5 ⑥3,6 ⑦3,2 ⑧2,9	3,5	<p>○ 自己表現力向上とともに、互いを認め合う心の醸成は不可欠であり、継続的な取組をお願いします。</p> <p>○ いじめ「ゼロ」は素晴らしいです。</p> <p>○ 生徒の精神面に対する支援には、先生方には大変な苦勞が予想される中、全職員で見守ることで初期対応をお願いします。</p> <p>○ SCやSSWと学校の取組により、不登校解消につながっていることから、引き続きの対応をお願いします。</p> <p>○ 他人への思いやりを意識して生活をしている生徒がほとんどであることに、地域でもしっかり見守ることが大事だと思います。</p> <p>○ 様々な取組により数値目標達成ができています。自己評価が低い理由が気になります。</p> <p>○ 新聞投稿での生徒の作文・詩等は、地域の方々も楽しみにされ生徒や学校を知る良い場となっている。今後も投稿をお願いします、図書館利用と関連付けできるとよい。</p>
体 育	<p>○ <b>体力の向上と健康安全の充実</b></p> <p>⑨ 体力向上プランに基づく授業・部活動を通して、体力向上を図る。</p> <p>⑩ 体力テストのDE段階の割合10%以下を目指す。</p> <p>⑪ 安全教育、防災教育、避難訓練等の充実を図り、安全意識の高揚と危険回避能力の育成を図る。</p> <p>⑫ 健康への意識高揚を図り、健康管理能力を高める。 (虫歯治療率90%以上、肥満10%以下)</p>	<p>○ 体育の授業ではブラジル体操を取り入れながら、種目によって補強運動も行っている。駅伝・ロードレース大会に向けて、5日間の耐寒トレーニングを実施した</p> <p>○ 測定日が例年と違い半年後であったことも要因のひとつと考えられるが、体力テストD判定3名、E判定3名とDE段階の割合は4%で数値目標を達成することができた。</p> <p>○ 今年度は、避難訓練のひとつである「引き渡し訓練」を小中学校と同日に実施した。初の試みであったが、トラブル等もなく有意義な訓練となった。次年度は、地域と連携した取組を計画したい。</p> <p>○ 学級担任や部顧問の個別指導や家庭との連携を図りながら、虫歯治療率が90,5%、肥満度10,2%とほぼ数値目標を達成できた。</p>	⑨3,5 ⑩3,3 ⑪3,3 ⑫3,5	3,4	<p>○ コロナで制限のある中、目標達成に向けての努力が結果に出ていると思います。</p> <p>○ 種目によって補強されたことはよい。</p> <p>○ いろいろと工夫しながら取り組まれており、引き続きお願いします。</p> <p>○ 小中学校と連携した「引渡訓練」の実施は、災害時非常に有効となる訓練であり、幼稚園・保育園そして地域と連携した取組をお願いします。</p> <p>○ 危険回避能力の育成では、安全意識が高まる内容に取組まれた。「引渡訓練」実施は学校と家庭との連携を確認できる良い取組となったが、地域の方にも計画を知らせることや協力、実際に起こった場合など、見通しを知らせることで地域一帯も視野に入れるとよいのではないかと。</p> <p>○ 数値目標を達成しており評価できる。家庭の協力を得ながら100%達成を目指していただきたい。</p>
食 育	<p>○ <b>食育の充実</b></p> <p>⑬ 朝食摂取率93%以上を目指す。</p> <p>⑭ 給食指導や「弁当の日」の取組を充実させることで、食と健康への意識を高め、感謝の心や豊かな食習慣を育成する。</p> <p>⑮ 残食率10%以下を目指す。</p>	<p>○ 朝食摂取率は96%と昨年度を上回り、数値目標も達成できた。保健主事からの「保健だより」の配付や個別指導などの効果があったといえる。今後も継続的に指導していきたい。</p> <p>○ 弁当の日は、生徒に取組方のコースを選択させ、2回実施した。また、給食感謝週間を設定し、「食べ物の大切さ」「健康のありがたさ」「食に関わる多くの人のおかげで食べられること」を改めて考え、感謝して食べることや食を大切にす気持ちをもたせた。</p> <p>○ 残食率は6月0,4%、11月0,1%であった。学年職員と現状を確認しながら、米飯量(給食センター)を調整した成果もある。</p>	⑬3,4 ⑭3,6 ⑮3,7	3,6	<p>○ 朝食摂取はなぜなのか、子どもや家庭に知らせる。知ることで摂取率が上がった「保健だより」配付効果があり、来年度も引き続きお願いします。</p> <p>○ 作ってくれた人、食を大切にす気持ちも日ごとの給食や弁当を作ることで感じられ、感謝週間はよい取組でした。感謝とは何かへ完食することなのか、食材について知ることなのか。家庭だったら食器など洗うなどして感謝の一つとして示すのか。気持ちの他に何か動きが見られたのか知れたのかです。</p> <p>○ 今まで長期にわたって取り組んでこられたことが、しっかりと根付いてきたと思います。</p> <p>○ 数値目標を達成しており評価できる。家庭の協力を得ながら継続した取組をお願いします。</p> <p>○ 朝食の必要性や「弁当の日」などの食に関することは、家庭での取組も重要と考えますので、給食日より保健だよりによるお知らせや、学校だより「自他共栄」での情報発信を継続して行うことが、目標達成に結びつくものと思います。</p>
<p>次年度の方向性についての校長所見</p>		<p>今年度はコロナ禍の中、臨時休業・分散登校の影響を受け、教育課程を修正しながら、教育活動を展開した。来年度もコロナウイルス感染症対策を取りながら、生徒一人ひとりが向上心をもって楽しく充実した学校生活が送れるように、知・徳・体・食のバランスのよい教師の仕掛けや校内の仕組み作りを行っていききたい。そして本校のスローガンである「自立と自律」「感謝」「貢献」の実践に努めていきたい。</p>			